

第3章

オンライン交流活動

1 内閣府青年国際交流担当室長挨拶

由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長

令和5年度「東南アジア青年の船」事業の開講式に当たり、御挨拶を申し上げます。

「東南アジア青年の船」事業は、1974年、ASEAN各国と日本の共同声明を契機に、日本政府とASEAN各国政府の共同事業として開始された歴史ある事業です。

これまでの参加者は1万3千人に上り、かつて参加された方々は、今ではそれぞれの国や国際社会において、責任ある立場となり、この事業での経験や人脈を生かして、活躍されています。国境を超えて築かれた友情と信頼は、アジアの平和と発展に大きな役割を果たしてきたものと考えています。

直近の3年間は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、オンラインのみの交流となっております。

ましたが、今年度は、今、皆様が参加されているオンライン交流と、対面交流を組み合わせたハイブリッド形式のプログラムを実施するとともに、「日本ASEAN友好協力50周年」を記念して交流会を開催いたします。

これからの時代を担っていく皆さんが、この事業において、生活を共にし、切磋琢磨しながら、相互理解を深めることは、大変意義深いことです。お互いの国の歴史や伝統・文化を尊重し合いながら、大いに議論し、国を超えた友情と信頼を育んでいただくことをお願いし、私の挨拶といたします。

令和5年11月12日
開講式

2 オンライン交流活動日程

月日	時間 (日本時間)	活動内容
11月12日 (日)	14:00-14:45	開講式 ・由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長挨拶 ・内閣府担当者、一般財団法人青少年国際交流推進センター担当者紹介 ・各国PY紹介 ・ファシリテーター紹介 ・令和5年度「東南アジア青年の船」事業概要説明
	14:45-16:00	基調講演 講演者: Ms. Pannaritsara Chuenjitrabhiramon
	16:15-18:00	グループ・ディスカッションI(ディスカッション・グループ(DG) 別)
11月19日 (日)	14:00-15:15	NLセッション
	15:15-16:00	SGミーティング(ソリダリティ・グループ(SG) 別)
	16:15-18:00	グループ・ディスカッションII(DG別)

3 基調講演

Ms. Pannaritsara Chuenjitrabhiramon

まず、このような素晴らしい機会を与えてくださった日本の内閣府、ASEAN加盟9カ国政府、そして一般財団法人青少年国際交流推進センターの皆様にご心より感謝申し上げます。1990年にPYとしてSSEAYPに参加してから33年が経ちましたが、にっぽん丸に初めて乗った日、そして今日の皆さんと同じようにPYになった時の気持ちを今でも鮮明に覚えています。今日、再びSSEAYPに戻り、この基調講演ができることをとても嬉しく思い、胸が踊っています。

さて早速ですが、仲間として皆さんにひとつメッセージをお伝えしたいと思います。私も何年も前のことではありますが、かつては皆さんと同じPYでした。「一度PYになれば、ずっとPY」とよく言いますが、全てのPYはSSEAYPファミリーの一員なのです。

1. 私には夢がある！

今日、私は『アイ・ハヴ・ア・ドリーム (私には夢がある)』という曲でセッションを始めました。これはABBAの有名な曲で、ミュージカル『マンマ・ミーア』のオープニング曲でもあります。私はこの曲が大好きですし、皆さんの中にもこの曲をご存じの方がいると思います。なぜ私は、この曲から始めたのでしょうか？ 私には夢があるし、あなたにもあると思うからです。私たちは皆、ひとつの夢、あるいはたくさんの夢を持っているでしょう。大きな夢だったり、小さな夢だったりするかもしれませんが、あなたには夢がありますか？ ただ夢を見ているだけですか？ 皆さんはきっと夢を持っていると思いますし、私自身も持っています。今日は、夢を見るだけのドリーマーから世界を変えるリーダーへと、自分を変える方法を紹介しようと思います。

では、私が子どもの頃に見た夢を紹介しましょう。

5歳の時、私はすでに大人になったら何をしたいか分かっていた。5歳の子どもが何になりたいか、何をしたいか分かっているのは、ちょっと早すぎますし、あまり普通ではないかもしれません。ですので、私がやりたいことを人に話しても、みんな子どもの夢だと思っていました。

私の夢は何だったのでしょうか？

私が子どもの頃、両親はよく第二次世界大戦に関連した良い話や悪い話をたくさん聞かせてくれました。戦争により両親は運命を共に歩むようになったのです。そして、両親は戦争中、さまざまな経験や苦しみを味わいました。テレビで第二次世界大戦に関連したニュースやドキュメ

ンタリー映像、映画、ドラマを見るたびに、両親の目には涙が浮かんでいました。もしかしら、両親はテレビの中の人々と共通する何かを持ち、生き残るために経験した苦しみを感じていたのかもしれませんが。戦争のせいで学校がなく、私の母は学校に行けませんでした。母いわく、全ての学校が爆弾で破壊されました。母の通っていた学校に爆弾が落とされたのは、小学1年生のときだったそうです。

このような話全てを聞きながら、なぜ人々は殺し合わなくてはならないのか、彼らは何を望んでいるのか、どうすれば戦争を止められるのかと考えました。戦争と平和は表裏一体です。私の両親や第二次世界大戦を生き抜いた多くの人々が経験したような出来事を、誰も、特に子どもたちが経験することのない世界を夢見ていた私は、平和を作り出す方法を見つけようと決意しました。

子どもの頃からの私の夢は、平和な世界を作ることだったのです。大きくて不可能な夢のように聞こえますが、不可能な夢を実現するためには何をすればいいのでしょうか？ 答えは、情熱を持ち、夢を実現するために必要なパズルを全て揃える、ということです。では、まず情熱についてお話しし、その後パズルの話をしましょう。

2. 私には情熱がある！

情熱とはなんのでしょうか？

情熱とは、何かに対して、あるいは何かをすることに對して、熱意や興奮を強く感じることです。情熱とは、あなたが心から望んでいることです。必ずしも今やっていることである必要はありません。ダンス、歌、絵画、コーディング、スポーツ、プログラミング、マーケティングなど何でもいいです。あなたが本当にやっていて楽しいことであり、目標を達成できるまでやめられないことです。また、ワクワクしたり、嬉しかったり、やりがいを感じたりすることでもあります。

私の夢は平和を創造することであり、私の情熱は平和を創造する方法を見つけることでした。私は平和を創造する方法を見つけることに挑戦しました。私の情熱が難解すぎて理解できないようでしたら、他の人の情熱の例を見てみましょう。

(オーディション番組の映像を視聴)

ニン：こんにちは。ご機嫌いかがですか？

チーム：今日は最初のセッションなので、とてもわくわくしています。

ニン：お名前とお仕事は？

チーム：Treephum Kraisornthongsriと申します。チームと呼んでいただいても構いません。ナコーンパトム市で、公務員のコミュニティ開発専門家として働いています。

ニン：歌手でもあるのですか？

チーム：そうですね、でも時々、副業としてやっているだけです。私はシラパコーン大学の文化振興センターで、アートと文化の分野で働いています。ですから、タイや国際舞台において公演し文化交流する機会がたくさんあります。

ニン：動画内で何をしていたか教えてください。

チーム：数年前、タイの放送チャンネルにある「Playing Aシーズン2歌唱コンテスト」というテレビ番組に出演したときのものです。そのエピソードで、国中の何百、何千もの競争者から選抜されたのが私です。次のラウンドに進むには全ての審査官から少なくとも2票をもらわなければいけないのですが、私は4票も獲得しました。とてもラッキーでした。

ニン：なぜ歌唱コンテストに参加したのですか？

チーム：4～5歳の頃からの「歌手になる」という最初の夢を追いかける、その情熱のために、やりたかったということです。

ニン：あなたにとって歌うことにはどんな意味がありますか。どんな気持ちで歌っていますか？

チーム：歌と音楽は私の心と魂のようなものです。音楽、アート、文化が大好きなのです。一番重要なのは、音、声、感情を通して観客に幸せを広めるような、幸せを与える人になることです。観客が幸せになれば、その幸せは私にも返ってくる。たった一度の人生で、もし夢を実現できなかったら、私は一生悲しい思いをするでしょう。夢をやり始める時期は重要ではなく、たった一度の人生でやりたいときにやるのが一番重要です。

ニン：チームさん、今日は私と皆さんに情熱を共有していただき、ありがとうございました。



情熱とは何なのか、おわかりいただけだと思います。時間があるとき、あなたが何に情熱を注いでいるのか考えてみてください。それでは、私の夢をどのように実現させるか、そして私の夢を実現させるために、あなたの夢と情熱がどのように関係するのかお話しします。

3. パズルを集めて夢を追いかけてよう

さきほど、夢を実現するためには、情熱を持ち必要なパズルを集めなければならないと述べました。パズルと

はなんのことでしょうか？

この図をお見せして、パズルの各ピースを説明しましょう。夢を追うためには、パズルを集める必要があります。まず自分の夢を見つけ、夢を見つけた後は情熱に従う必要があります。夢を持ち、情熱を持ったあとの次のステップは、学校内外で教育や知識を得ることです。

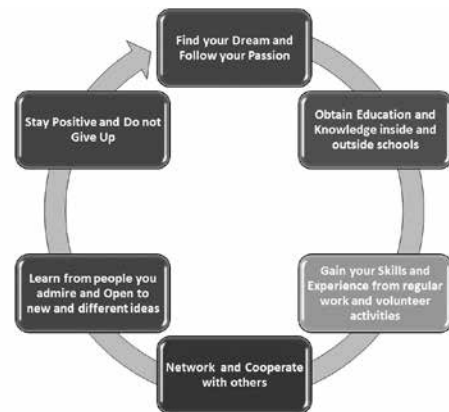
パズルの最初のピースは知識です。

二つ目は、あなたの経験とスキルです。普段の仕事やボランティア活動でスキルや経験を積む必要があります。学校の課外活動でも構いません。

三つ目は、ネットワークです。

四つ目は、尊敬する人たちから学び、新しく異なるアイデアを受け入れることです。

五つ目は、困難に直面してもポジティブでいること、そしてあきらめないことです。



3.1 ロードマップを作り、あなたの夢を実現するために必要なパズルを集める

私がどのようにロードマップを作り、夢を実現するために必要なパズルを集めたかを紹介します。私の夢は平和を創造することだったので、知識を得ることから始めました。

子どもの頃はもちろん、平和を創造するためにどんな教育が必要なのかわかりませんでした。大人になったら何をしたいかを両親や兄弟姉妹、先生たちに相談し、知識をつけるためにはどのような教育や科目が必要なのかを聞きました。両親は高学歴ではなく、この分野においてあまり助けにはなりませんので、学校の先生によく相談しました。先生たちは必要な知識を得るために履修すべきコース、科目、専攻について指導してくれました。私は高校時代から政治学と国際問題を学びたいと強く思っていました。また、英語とフランス語を理解することで、外国人と接するために必要なスキルを身につけることができました。これらは国連で使われている公用語であり、国連で志を同じくする仲間たちと働くことで平和を創造するという夢を追いかけるべきだと言われたのです。

3.2 平和を創造するための知識を得るために役立つ科目を勉強する

高校卒業後、私はタイのタマサート大学で政治学と国際問題を学ぶことにしました。タマサート大学は政治活動が盛んで、大学も教授もかなりリベラルでした。フルタイムで勉強し、学費と生活費を払うためにフルタイムで働き、両親に迷惑をかけないようにしました。大学1年生の頃、私の大学の隣にあるアジア工科大学というアジアのマサチューセッツ工科大学(MIT)のような大学院で学ぶ留学生のタイ語教師として働きました。その後、友人の父親が経営していた地元のホテルでフロント係として働き、海外のお客さんと英語の練習をする機会を得ました。大学の4年間フルタイムで働き、卒業まで自活しました。また、平和を創造するための知識、技術、経験を身につけられると信じて、全ての科目を選択し、課外活動にも打ち込みました。

3.3 SSEAYPは、平和を創造するという私の夢を実現するパズルの大きなピース

私の人生を変え、世界に平和をもたらす構想を思いつくに至る重要な土台、経験、そして踏み台となった課外活動のひとつが、今日ここに皆さんが集まっている理由でもある、東南アジア青年の船、SSEAYPです。

21歳でタマサート大学政治学部の4年生だったとき、私は国際文化交流プログラムである東南アジア青年の船のことを耳にしました。このプログラムは、選ばれた若者たちが自国を代表する「若き外交官」として活躍するというので、タイの若者たちの間でとても人気がありました。このプログラムは、ASEAN加盟国全ての協力のもと、日本政府によって開始されました。1990年当時、ASEAN加盟国はブルネイ・ダルサラーム国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの6カ国だけで、プログラムに参加できるのは、毎年各国政府から選抜された35人の若者だけでした。私は1990年にSSEAYPに応募し、タイ政府から正式な参加青年として選ばれてプログラムに参加しました。私は今日の皆さんと同じように、自分たちの国から選ばれた若き外交官だったのです。先ほど、SSEAYPは平和を創造するという私の夢を実現するための重要なパズルのピースであると述べました。

SSEAYPは私に何ををもたらしたのでしょうか？

第一に、このプログラムは参加国全てに関する幅広い知識を提供し、さまざまな活動や体験を通して私たちのスキルを養ってくれました。全ての活動に参加し若き外交官として活躍するために、私は出発前の研修にて幅広いトレーニングを受け、参加国全ての文化を学ぶ機会を得ました。また、タイの文化や歴史をより深く理解し、自国の美しさ、強さと弱さ、長所と短所を知ることができ

ました。プログラム期間中、SSEAYPは私に、国旗掲揚式、国家元首や著名人への表敬訪問、スピーチや政府首脳への挨拶など、外交儀礼を体験する機会も与えてくれました。

第二に、SSEAYPへの参加は、全ての参加青年に自国以外の世界を見る大きな機会を提供しました。SSEAYPに参加することで、参加青年は異なる背景や文化を持つ他者と平和的かつ敬意を持って共存することを学びました。そして最も重要なことは、にっぽん丸の船上で協働し楽しむことを通じて、参加青年全員の友情とリーダーシップを育むということです。それによって、未来のASEANと日本のリーダーたちの間に強いネットワークが生まれるのです。私はディスカッション・プログラムにおいて、他者と協力し、異なる意見に対しても心を開き尊重する方法を学びました。エキシビションやナショナル・プレゼンテーションでは、参加各国の文化や伝統を目にし、体験することができました。伝統芸能を通して文化的なスキルを磨くこともできました。

第三に、SSEAYPのローカル・プログラムでは、各国のローカル・ユースと関わるすることができます。またにっぽん丸が訪問した各国において、ホストファミリーと生活を共にすることで、参加各国それぞれにおける、人々の生活や文化を学ぶ貴重な機会を得ることができます。

第四に、プログラム終了後、参加青年はそれぞれの国でSSEAYPの事後活動組織のメンバーとなります。SSEAYPの事後活動組織は、プログラム終了後、既参加青年全てが互いにに関わり合い、友情や交流、社会貢献を継続するためのプラットフォームとして機能しています。

プログラムの構成は徹底的に考え抜かれており、プログラム終了後も友情やネットワークが育まれるように設計されています。既参加青年は経験を持ち帰り、日々の生活の中で出会う人々と分かち合い、地域社会に貢献し、プログラムに直接参加する機会のない人々にもきっかけを作ることが奨励されています。

SSEAYPで得た経験は、国連が掲げる17のSDGs全ての達成を目指す世界初の持続可能な都市となるミレニアム・タウン・プロジェクト(MTプロジェクト)を立ち上げる際の、重要なパズルのピースになることは間違いありません。MTプロジェクトについては、後ほどご紹介いたします。

SSEAYPの後、私は何をしましたでしょうか？

私はパズルを集め続けました。タイに戻ってタマサート大学の学士号を取得し、奨学金で日本に留学しました。日本には8年間住みました。その8年間、南山大学で日本語を学び、東京大学で最初の修士号を取得し、国際移住や人身売買について研究しました。また、日本人にタイ語を教えたり、NHKラジオ日本のタイ語セクションのアナウンサーを務めたりしました。この経験を通じて、

ファクトを収集・分析し、他の国際的なパートナーに報告したり、プレゼンテーションしたりするスキルが身につきました。同時に、大きな投資資金を必要とするメガプロジェクトを実施するには、徹底的かつ包括的な調査や実証実験が非常に重要であると実感しました。

日本で8年間学び、働き、暮らした後、ニューヨークに渡り、コロンビア大学国際公共政策大学院 (SIPA) にて二つ目の修士課程に進学しました。国際移住や人身売買から、人権や国際機関の分野にも知識と理解を広げ続けました。

SIPAを卒業した後、国連でインターンシップを経験しました。そして国連が扱っているさまざまな業務に携わり、実地経験を積むために、ボランティアとして無給で働きました。私はさまざまな分野を担当することになりましたが、主に国連加盟国全ての国別報告書のレビュー、分析、評価を担当しました。これは1992年のリオ地球サミットのブループリントと成果です。国連は2002年南アフリカのヨハネスブルグで、我々が2002年ヨハネスブルグ・サミットと呼ぶ「持続可能な開発に関する世界サミット」を開催し、アジェンダ21に関する国連加盟各国の達成度を評価しました。2002年ヨハネスブルグ・サミットには、各国首脳、各国代表団、非政府組織 (NGO)、企業、その他の主要団体のリーダーを含む数万人の参加者が集まり、人口が増加し、食糧や水、シェルター、衛生設備、エネルギー、医療サービス、経済安全保障を求める声が増える世界において、人々の生活を改善し、天然資源を保全するといった、困難な課題の解決に向けて世界の関心を集め、行動を喚起しました。

この2002年のヨハネスブルグ・サミットは、私がSSEAYPのコンセプトである「平和への実践的なロードマップ」を基礎としたMTプロジェクトをまとめるためのブループリントとなりました。MTは国際協力と友好、そして持続可能な開発というコンセプトを融合させ、平和を実践的に創造するものであり、実際、SSEAYPの世界レベルでのスピノフ・プロジェクトといったものです。国連で働いていた頃、私はウォール街の投資銀行家や金融投資家とも仕事をしていました。そのおかげで投資家のネットワークが広がり、メガプロジェクトを行うための資金調達が必要になった際の、投資や資金調達に関する知識を深めることができました。

約20年間、さまざまな専攻を学び、さまざまな分野で働いて経験とスキルを積み、夢を実現するために必要な全てのパズルを完成させた後、私はタイで世界初の持続可能な都市を開発するという具体的な計画を持ってタイに戻りました。私の考える持続可能な都市はスマートシティを特徴としているので、建設会社にも5年半勤め、エンジニアや建築家と一緒に働くことで建設分野の実地知識を得ました。また、このプロジェクトはメガプロジェクトであり、さまざまな分野やキャリアを持つ人々の協

力を得る必要があります。そのため、都市開発やその他の分野の専門家を探し始めました。適切な専門家や都市開発分野の人々を集めるため、私はニューヨークのスマートシティに関するイベントや国連でMTプロジェクトの紹介とプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは多くの関心を集めました。最初の持続可能な都市づくりを支援してくれる適切な専門家やパートナーを全て確保し、またプロジェクトを成功させるために必要なシード資金を提供してくれる投資家も揃いました。



3.4 そしてチャレンジにぶつかった！

このプロジェクトを公に推進しようと計画していた数カ月前に、新型コロナウイルスが大流行しました。私が危機の中でどのようにチャンスを見いだすかをお話する前に、私のロールモデルであり、困難に直面するたびに尊敬する人物についてお話ししましょう。

3.5 尊敬する人から学ぶ！

この30分間で、私の夢、情熱、学歴、職歴、その他の活動についてお話ししました。私の目的は、夢を実現するためには、戦略を練り、ロードマップを作り、必要なパズルを集め、時には失敗したり、挫折や困難にぶつかったりしても、夢を実現させる決意と情熱が必要だということ伝えることでした。自分の夢を語ることで、人々から「他の惑星から来た」と思われ、目を丸くされ、クレイジーだと思われるかもしれません。そんなとき、どうすればいいでしょうか。私の場合は、ただ微笑んでパズルを集め、つなげ続けました。

今日は、不可能をすべて可能にした、私にとってインスピレーションの源となる男性を紹介したいと思います。

まず、ヒーローの写真をお見せしましょう。彼は70年間タイを統治した故ラーマ9世です。彼はタイ国民により良い生活をもたらすために懸命に働きました。プミポン国王は、彼が行ったほとんど全てにおいて、そして国民に自給自足するよう教えた方法において、私のヒーローです。これらの写真から、彼が馬に乗り、地図を持ち、村人と話し、米の育て方などを村人に実演しているのがわかるでしょう。私は子どもの頃、彼が熱心に働き、どれだけ人々に尽くしているかを見てきました。彼の自給自足

的な経済哲学は国連の持続可能な開発目標にも通じるものがあり、国連からも称賛されました。

私がタイに捧げ、全人類に遺産を残そうと計画しているミレニアム・タウン・プロジェクトを思いついたとき、タイ国王ラーマ9世の功績とタイの人々に対する彼の献身にインスピレーションを受けたことは否定できません。また、平和を築くという夢を追いかけて障害や困難に直面するたびに、私はラーマ9世と王室の命令、演説、声明、指導を思い出します。自分の夢や情熱を貫くためのロードマップを作る際、その夢がたまたま自分の国にとって有益なものであったとしたら、困難や障害に出会ってもすぐに諦めてはいけません。あなたが尊敬する人々やあなたのヒーローから、彼らがどのように困難を乗り越えてきたかを学んでください。70年間、プミポン国王は模範としてタイ国民を導き、困難に直面しても目標に到達したいのであれば、忍耐を保ち諦めるなど教えてくれました。



4. ミレニアム・タウン・プロジェクトとは何なのか？そしてどのようにして私の夢である平和を実現するのか？

先ほど、ミレニアム・タウン・プロジェクトはSSEAYPのスピンオフ・プロジェクトだと申し上げました。SSEAYPのコンセプトに基づいて本プロジェクトを立ち上げたので、SSEAYPの分身というわけです。私は50年にわたり全てのパズルを集めました。平和を創造するという夢を叶える前に、私は全てのパズルをつなげなければならなかった。私は何をしましたでしょうか？SSEAYPに参加した後、私は自分の夢を実現するために必要なパズルを集め続けました。必要なパズルを全て集めた後、全てのパズルをつなげる時が来ました。MTプロジェクトは、私が集めた必要なパズルを全てつなげた大きな絵だったので。

ミレニアム・タウン、あるいはMTプロジェクトとは何でしょうか？

MTプロジェクトは、私が20年前に始めた持続可能な都市開発プロジェクトです。国連のアジェンダ21のブループリントに基づいた世界初の持続可能な都市を作ろうという試みです。17の国連SDGsの達成に奮闘するスマートシティを特徴としていますが、焦点はテクノロジーや

インフラ、所有物だけに当てているわけではありません。このMTは、持続可能な開発、経済発展、そして最も重要である人間開発や協力、異なる背景や文化を持つ人々の平和的共存、そして人類と自然との共存を促進するために作られました。

MTプロジェクトの全ての活動は、17の国連SDGsに合致するよう慎重にデザインされています。本タウンは、年齢に関係なく、すべての地球市民をターゲットにしていますが、退職後に再び働き、自分の経験、スキル、知識を持ち込んで、発展途上国のローカルの人々と共有し、貢献したいと考えている、さまざまな先進国出身の退職者に焦点を当てています。彼らは、国際協力、友情、規律、チームワーク、異なる背景を持つ人々への愛と尊敬、そしてローカルの人々との交流を通じて、人間的、経済的、社会的発展に貢献するために、自分の経験、技術、知識を後発開発途上国の地域社会と共有し、貢献しようと考えています。タウンでの活動すべては、先進国の人々から発展途上国の人々への学習体験の提供、知識共有の促進、技術移転の機会の提供を目的としており、全ての活動は17の国連SDGsの達成を目指しています。

MTプロジェクトは、平和を構築する実際のモデルとなることを目指しています。なぜなら、平和というものは、友情や尊敬、愛、そして全ての家庭の食卓に食べ物や並べ、人々が質の高い尊厳ある生活を送るために十分な収入を得られるような教育や仕事を提供することによって創造できると私は信じているからです。最も重要なこととして、本プロジェクトは開発途上国の人間開発に焦点を置き、まずはタイから始めます。なぜなら人的資本が経済的・社会的発展の最大の基盤であり、それがやがては国連の持続可能な開発目標につながるということです。第二次世界大戦の灰の中から誕生した国連のように、MTはウイルス戦争やCOVID-19の中から誕生し、雇用を生み出し、収入をもたらすことから苦境にある世界経済を好転させる一助となるでしょう。MTは、全ての人に団結と平和をもたらし、現在の世界的な経済的・社会的課題に対する解決策を提供するための新たなプラットフォームとなるでしょう。そうやって私は、危機の中にチャンスを見出しているのです。

5. カルペ・ディエム(今を生きよ)

最後になりましたが、私が50年近くかけてパズルを集め、つなげ、最初は不可能に思えても夢を実現させてきたことを、お分かりいただけたと思います。必要なパズルを集めることも大切ですが、それ以上に大切なのはパズルをつなげること、つまり、夢を実現するために行動し、周りの協力を得ることです。SSEAYPに参加したことは、私にとってまさに千載一遇のチャンスでした。にっぽん丸は私をタイ以外の世界へ連れて行ってただけではありません。かつては夢でしかなかった目的地にも連れ

て行ってくれました。

2023年は、日・ASEAN友好協力50周年の節目の年であり、みなさんは、この重要な歴史の一部に加わることができ、大変幸運に思います。ASEANと日本の協力が半世紀を経た今、未来は皆さんの手に委ねられており、皆さんにはASEANと日本の協力をより強固なものにすることで、新たな歴史の1ページを刻んでいただきたいと思います。私は、ASEANと日本の協力によって世界をよ

り良い場所に変えることができると信じています。なぜなら、皆さんは、すべての人類の間、そして人類と自然の間の持続可能な開発と平和的共存を推進する未来のリーダーとなるからです。カルペ・ディエム！今を生きよ！そして、今年SSEAYPに積極的に参加される皆さんの成功と実りある経験をお祈りします！ありがとうございます。

4 NLセッション

NLセッションは、参加青年や参加国をよく知ることを目的とし、NL主導の下、開催した。

NLセッションでは、動画や音楽を用いて、各国がそれぞれ自国の紹介を行った後、学習ゲーム機能を持つオン



各国NLの紹介

ラインプラットフォームKahoot!を用いて参加国に関するクイズを行い、日本とASEAN各国の理解や学びを深めた。

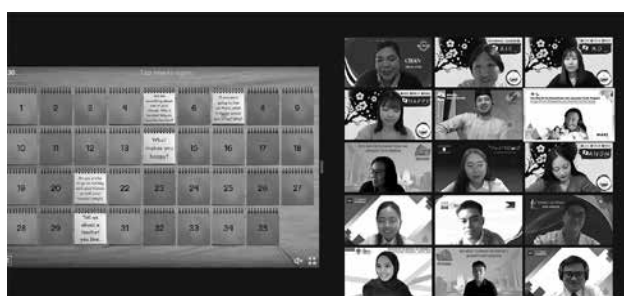


参加国に関するクイズ

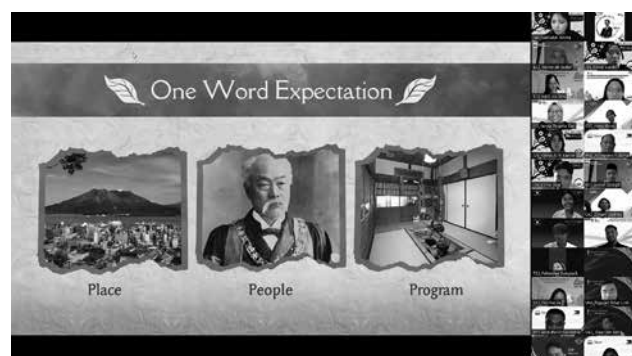
5 SGミーティング

SGごとに地方プログラムを行うことを踏まえ、SG内のコミュニケーションを円滑にし、PY同士の結束を高めるため、日本国内活動が始まる前にSGミーティングを開催した。

SGごとにブレイクアウトルームに分かれ、NLの企画・司会の下、自己紹介や事業に対する期待などを共有しあう場を通して、お互いを知る機会とした。



数字をタップして出てきた質問に答える (SG-A)



地方プログラムに向けての期待を共有 (SG-E)